



火災対策

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求め。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(繊維は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

浴室

浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて一気に消火する。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険がある。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火する。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火する。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を断つ。



竜巻対策

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバーストといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。直径は数十～数百メートルで、数キロメートルに渡って移動し、被害地域は帯状になる特徴があります。

竜巻注意情報 (気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>



「竜巻」が間近に迫ったら… いろいろな物が猛スピードで飛んできます!

屋内では

- 窓から離れる。
- 窓やカーテンを閉める。
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。
- 家の1階の窓の少ない部屋に移動する。

屋外では

- 頑丈な建造物の物陰に入って、身を小さくする。
- 物置や車庫、プレハブの中には入らない。
- シャッターを閉める。
- 電柱や太い木には近づかない。

雷対策

「雷」から身を守るには… 遠くで音がしたらすでに危険な状態です!

- グラウンドやゴルフ場、海の上などの開けた場所や、山頂などの高いところは危険!
- 電柱、鉄塔などの高い物体には近づかないように!
- 高い木の近くは危険! 2m 以上は離れてください!
- 姿勢は低く、持ち物は体より高くしないように!
- 建物や車の中は比較的安全な空間。
- 木造建築物の中では、電気機器や壁から 1m 以上離れば更に安全。
- 雷の活動が止み、20 分以上経過してから安全な場所へ移動しましょう。

レーダー・ナウキャスト (降雨・雷・竜巻) (気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>



ウイルス等による感染症が収束しない中でも、災害時には**危険な場所にいる人は避難することが原則**です。

適切な避難行動をとるために…

知っておくべき 5 つのポイント

- 1 避難とは『難』を『避』けること**
自宅での安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。
- 2 避難先は学校・公民館だけではありません**
避難所が過密状態となることを防ぐため、**安全な場所に住む親戚・知人宅に避難**することも検討しましょう。
- 3 マスク・消毒液・体温計が不足しています**
避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ**自ら携行**してください (マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)
- 4 避難所などの変更・増設を確認**
本書発行後に情報が変わる可能性もあります。あらかじめ**町ホームページ等で確認**してください。
- 5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です**
避難所への経路など**周囲の安全確認**を十分に行ってください。

避難先では感染症予防に努めましょう!

- **避難所に入る前に**
感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。避難所に入る前に、発熱の有無など体調チェックを行いましょう。すでに体調が悪い場合はすぐに受付へ申し出ましょう。
- **換気の実施**
可能な限り、定期的に換気を行いましょう。換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策も必要です。
- **「3密」(密閉・密集・密接)の回避**
避難者同士 2m 程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。
- **手洗い、うがいをこまめに**
食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いを。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。
- **咳エチケットの徹底**
飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくてもマスクを着用しましょう。
- **日々の健康状態をチェック**
継続的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。

